



平成 25 年 3 月 30 日発行 鷹山宇一記念美術館友の会

〒 039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一 『郷愁都市』(キャンパス・油彩、1998年春季二科展出品)

はじめて作品に対峙した瞬間、いやな予感が走った。鷹山宇一先生はその生涯をまともにかかっているのでは……と。1998年の春季二科展は当鷹山美術館でも移動展が開催された。「郷愁都市」は、レセプションに臨席された当時の二科会理事長・鶴岡義雄氏に、「確固たる評価を受けた重鎮が自分のスタイルをこうして打ち破るということに敬意を表する」と言わしめた作品である。二科会会員の「造形上の実験的創造」を目的に開催される春季展を、そして「新しい価値の創造に向かって」との二科会趣旨を正に自ら体現しているかのようで、半世紀を二科会と共に歩んだ鷹山宇一ならではの作品であるとも言える。結局これが二科展最後の出品作となり、この翌年、ご家族に見守られるなか90年の生涯を静かに閉じられた。天寿を全うしようとする人は、その時期がやってきたことを自然に悟るものなのだろう、そう思わずにはいられない作品だった。

「花と蝶」のモチーフで知られる鷹山であったが、この3年ほど前から彼の作品にはシャボン玉のような光球、オーブが描かれるようになった。光の球の中には、メモリアルなモチーフや場面が描き込まれており、長女・鷹山ひばり氏によれば、「郷愁都市」には家族の姿、想い出が描かれているのだという。画家を志し18才で上京、その生涯のほとんどを東京を拠点に制作活動をし、絵筆一本で家族を養い、正々堂々の人生を歩んだ画家。ここには何よりも家族を愛した鷹山宇一という一人の人間の姿が素直に表されている。1日を自分なりのルールの中で規則正しく過ごし、絵筆を握り続けていた鷹山先生。その日常に変調を来してからわずか1週間たらずの入院ののち、愛すべき人たちに決別の、心の準備をする時間を与えて、穏やかに彼岸へと旅立られた。

信念をもって生きることの大切さ困難さ、自由な心を愛し、私利私欲によらず、引き際を見誤らない……この美術館で先生の生涯に触れ学んだことはもっともつと沢山、山のようにあり、私の人生訓となった。叶うならば、鷹山宇一先生のように最期まで尊敬に値する人生を全うしたいものと、かくも清々しく生きたいものと、願ってやまない。

敬愛する鷹山宇一先生。これまで本当にお世話になりました。ありがとうございます。(学芸員・大池亜希子)

平成二十四年春季特

別展「金山平三二十鴨居玲」展に
ゆかりのある勝田氏、収集作家
鳥谷樺山のお孫さんである会員の
野谷氏から投稿を頂きました。この
（ご紹介）です。

金山平三画伯の思い出

十和田市 勝田 和彦

今年四月から六月、七戸町立鷹山
宇一記念美術館で夢にまでみた「金
山平三」絵画展が開催されましたこ
とは、心から喜びに絶えません。

私の父、勝田善次郎は、金山画伯
を尊敬お慕いし、画伯が奥入瀬を写
生する時は我が家に滞在していただ
き、写生場所まで画材を持ち、お供
しました。

金山画伯は生涯弟子を持たず、写
生制作の様子を人に見せませんでした
た。不思議と父だけには心を許し、
制作現場へお供をさせ、写真撮影も
許していました。

父は、画伯の制作を離れた場所か
ら見学し学び、五十数年十和田湖で



晩秋の奥入瀬にて金山平三
撮影：勝田善次郎
「金山平三画集」より転載



左から野口明、勝田善次郎夫
人、金山平三(勝田宅にて)
撮影：勝田善次郎
「金山平三画集」より転載

油絵を描き続けました。そんなご縁
で下落合の画伯アトリエに訪問させ
ていただいたり、三越デパートで開
催された展覧会にお手伝いに行かせ
ていただきました。父は平成十二年
に亡くなりましたが、元気でいたら
何程喜んでか解りません。

画伯は私が子供の頃、毎年のよう
に我が家へ滞在しました。その時の
様子を述べてみたいと思います。

先の滞在地和井内ホテルより、ホ
テルの観光船で送られて子の口へ渡
つてきます。私達親子が子の口棧橋
へ出迎え、我が家へ。

我が家では一番いい部屋で過ごし
てもらいました。厚地のズボン姿か
和服にもんぺ姿で過ごされました。
機嫌のいい時は、私を膝の上に乗せ
てくれたり、黒足袋にもんぺ姿で踊
つてくれました。それは芝居絵に描
かれていた役者の踊りそのものでし
た。子供ながらに感動したことが忘
れられない最高の思い出です。

画伯は洋風な顔立ち、スタイルが
良く、長身で近寄りたたい威厳があ
りました。画伯が滞在されると我が
家はピンと張り詰めた緊張が漂っ
ていました。母はいつも私に、「先
生のそばに行つてはだめよ」、「う
るさくしてはだめよ」と言っていま

した。そんな母が一度、画伯が描い

た油絵にほうきを立て掛けていたこ
とがあり、画伯に見つかり、父が注
意されたことがあったようです。母
にするのとちよつと思つたよう
ですが、間が悪かつたというのでし
ようか。そんな一コマもありました。
画伯は甘いものが好きでしたので、
母はよく団子や餅を作つて召した
つていたでいていました。その時は
私も食べさせてもらえたので、嬉し
いと思つたことを覚えています。
以上、記憶に残っている思い出です。
金山画伯の人となり、魅力の理解
になればと筆を執らせていただきま
した。

いつの日か、十和田湖・奥入瀬に
ゆかりの深い画家の一人として、再
び七戸町立鷹山宇一記念美術館でそ
して青森県立美術館で、「金山平三
絵画展」が開催されることを念願し
ています。
(金山画伯が滞在されたゆかりの
子の口「みずうみ亭」店主)

海外駐在余話

神奈川県二宮町 野谷善達

十数年間米国に駐在しておりました。
その間いろいろと見聞したこと
などをお話させていただきます。

その1 わが美術館巡り

会社員となり四十代後半にたまた
ま米国駐在となった。仕事の合間に
米国ならびにヨーロッパの美術館を
訪れる機会が幾度かあった。米国で
はシカゴの美術館、ボストンの美術
館、ニューヨークの美術館、ワシン
トンの美術館などに第一次、第二次
世界大戦前後米国の金の力で買集
めた誠に沢山のヨーロッパの作品が

そこには展示されていた。その頃に
なると学生時代と比べ絵画に対する
興味が増したせいかな、かなり熱心に
見学するようになった。しかし美術
館の規模が大きく作品の数が多いと
見学するだけでとても疲れてしまつ
たものです。そんな時どなたかが
「疲れない美術館巡り」の話を新聞
で紹介されていた。その方は美術館
に行くときまず順路通り一通り会場を
足早に偵察して廻り、その途中に
なる作品の心に留めておくそうです。
普通の人のようににはじめからゆっ
り個々の作品を順番どおり鑑賞しな
いそうです。一巡後、先ほど鑑賞しな
つたいくつかの作品を改めて訪れて
鑑賞するのだそうです。こうすると
気に入った作品をゆっくり鑑賞でき
且つ疲れが少なくなるそうです。この話
を聞いて以降私もこの方式で作品を
観て廻るようになつています。

またヨーロッパではパリのルーヴ
ル美術館を再訪した際美術館に行く
たびに展示作品の絵葉書とかポスタ
ーなど記念に買求めるよう心掛け
た。その頃は歳と共に忘れっぽい
り帰宅後家に飾つたりしてどこの美
術館で何を観たか忘れないようにす
るためである。更にオランダのマウ
リッツハイス美術館を訪れた時など
は気に入ったフェルメールの「デル
フトの眺望」のデルフトの街が見た
くなり美術館のある街から近くに
ると聞き電車に乗る街を訪れたりし
たので更に印象深い作品になつた。
美術館友の会の方々からヨーロッパ
の美術館を過去何回か訪れておられ
ますがいつか米国の美術館（ボスト
ン、ニューヨーク、ワシントン、シ
カゴなど）を是非訪問したいと思
館に負けない傑作が沢山あります。

平成25年度

特別展

ごあんない



「箱根芦ノ湖 成川美術館所蔵」
現代女流作家展
命ある限り描き続ける
生きる証として

会期 4/27(土) ~ 6/16(日)



鳥山玲 「萌(春)」

してやまない花々、神々しい風景、慈しんできた動物、興味をもって観察した鳥や昆虫などの森羅万象をそれぞれの画風で描いております。
現代日本画壇の最高峰の堀文字は、82歳の時には青いケシ「ブルーポピー」を求めてヒマラヤへ、92歳を過ぎて「命といふもの」などを画集にまとめ、生きることへの執念を燃

やし続けております。森田りえ子は、大和絵の雅やかな花鳥画の本流とする京都日本画壇の伝統を受け継ぎ、2007年に世界遺産である金閣寺方丈(本堂)の杉戸絵と客殿の天井画を手がけたことはあまりにも有名です。また、鳥山玲は、故平山郁夫氏や堀文字氏に師事、金銀箔が仄かに光り、幻想的な雰囲気漂わせる独特な画風を作り上げ、2011年に弘法大師空海が最初に開いた福岡博多・東長寺五重塔内に本尊大日如来像と内部全般の荘厳画を描き、話題を呼びました。



堀文字 「ブルーポピー」

このように、女流画家が無心に描いた絵の中には、今に生きる自分の姿が投影されており、「命ある限り、描き続ける」画家の生き様に触れることにより、感動と喜びを呼び起こし、鑑賞

者である高齢者
は高齢者なりに、
若者は若者なりに
「明日に生きる」
糧を得、生きる証
として「人生の記
録」の1ページを
飾る契機となれば
と願ひ、開催しま
す。



森田りえ子 「南国の華」

入館料

一般	850(650)円
高校・大学生	400(320)円
小中学生	200(160)円

* () 内は前売券、20名様以上の団体、県民カレッジ受講者、JAF会員割引料金
* 前売券は、4/26迄美術館窓口及び下記にてお求めいただけます。
ローソン、ファミリーマート、セブンイレブン、サークルKサンクス各店
JTB商品番号 0234003

●6/19(日)茶室鷹千家と戸倉による「茶のサレシガキ」です。先着15名様



「第73回国際写真サロン展」
「第30回日本の自然展」

会期 10/5(土) ~ 11/4(月祝)

当館恒例の写真展。我が国で最も権威ある写真コンテスト「国際写真サロン」から入賞全130点を紹介します。また、10月11日から10月24日まで同時開催で写真展「日本の自然展」を開催いたします。

「第13回鷹山賞児童作品展」
「第13回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」
会期 11/10(日) ~ 1/26(日)

青森県の小中学生に作品を公募する「鷹山賞児童作品展」は、新しい時代を担う子どもたちに、制作体験を通して豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを味わってもらえたらと願い開催する絵画コンテストです。本展ではその入賞・入選に選ばれた作品を展示するとともに、併せて、JQA、I Q net が主催する、世界各国の子どもたちに「地球環境」をテーマに作品を公募した絵画コンテストから優秀作品を紹介します。

視察活動 保守ボランティアへのお願い

特別展開催中の当館内で、作品と来館のお客様の安全、そして、より良い鑑賞環境を保守するため、皆様のお力添えが必要です。興味がおありの方は、美術館へご連絡ください。ご協力をお願いいたします。

TEL 0176-62-5858

奥山庸子さんの学芸員のほころ

今年の1月から学芸員として採用されました奥山庸子と申します。これからどうぞよろしく願っています。

私は生まれも育ちも七戸で、物心ついたころにこの美術館が建設されましたので、美術館と共に育ってきたようなものだと思います。美術に興味を持ったきっかけも、そもそもが美術館が七戸にあったというのが大きな要因で、おかげさまで、小さい町にながらたくさんのことをこの美術館を通して学ばせていただきました。特別展の時期など、遠方からいらつしやった作家の先生方など実際にお会いして生の声を聞くことができましたし、やはり実際に教科書に載っている作品を鑑賞できたことは私の進路に大きな影響を及ぼしたと言っても過言ではございません。

私は大学が埼玉と東京にキャンパスを持つ日本大学芸術学部出身なのですが、卒業して社会人になる際、地元に戻るか東京に残るかという選択を迫られました。これは県外の大学へ進学した方々なら必ず直面する問題ですが、できるなら私は地元で仕事がしたいと思いい、卒業してから現在にいたるまで青森で仕事をし、暮らしてきました。この道を選択出来たのも、青森県が東京と比べても悪いところではなく、場合によってはむしろ優れている部分が多々あると思えたからです。

そんな風に私が地元を誇りを持っているのも考えてみれば郷土の歴史や文化といったものを知っているからなのではないかと思えます。ではそれを学んだのはどこか。

学校や先生方からも多くのことを学ばせていただきましたが、重ねてそれを実体験できる、国指定の絵馬や七戸がほころ画家達の本物の作品を紹介する地元の美術館であったと思えます。そしてここでは特別展でもって他の地域の文化を知ることにより、逆に地元の芸術や文化を客観視することができます。

今度は私が美術を通して地元の文化を発信し、他の様々な文化を紹介していければと思っておりますので、皆様どうかご指導、ご鞭撻の程よろしく願っています。



● 美術館日誌 ●

【12月】1日(土)当振興会評議員会
2日(日)船山館長出張(3館連携打合せ・十和田市現美)。WS鷹山宇一美術部「木版画で年賀状をつくろう②」開催5日(水)七戸町立城南小学校1年生児童29名・引率教員3名、4年生児童36名・引率教員2名(来館9日(日)遊蝶記11日(火)消防設備点検17日(水)七戸町立城南小学校児童40名・引率教員2名(来館14日(金)学芸員採用選考試験。友の会会報原稿柏文社へ入稿15日(土)船山館長出張(八戸工業大学第二高等学校美術コース作品展)16日(日)七彩会油絵教室開催20日(水)七戸町立七戸小学校2年生児童38名・引率教員4名、4年生児童40名・引率教員4名(来館22日(土)友の会会報発送作業29日(土)美術館仕事納め30日(日)年末年始休館(1月2日迄)

【1月】7日(水)美術館仕事始め。奥山学芸員辞令交付式6日(日)近田会計事務所山本氏来館14日(月)2F工房にて青森立志挑戦塾開催17日(水)重油入荷2000リットル17日(水)船山館長一日警察署長体験。おもてなしWSストラップづくり

大人1名実施19日(土)友の会新年会(杉屋敷奥山)20日(日)七彩会油絵教室開催21日(月)船山館長、戸館常務理事、奥山学芸員出張(現代女流作家展打合せ・東京)22日(火)奥山学芸員笠間日動美術館訪問(茨城県・笠間市)23日(水)船山館長、奥山学芸員出張(青森放送打合せ・青森市)。佐藤事務員出張(雇用安定法説明会・野辺地町)27日(日)船山館長出張(青森市美術館・高校美術展)29日(火)友の会海外研修旅行打合せ(JTB来館)。館内整備・展示替え休館(2/8迄)30日(水)みやざわ看板仮設壁撤去31日(木)ダスキンカーペットクリーニング

【2月】7日(水)絵馬懇談会開催(見町観音堂)。RABサービス八戸支店長三浦氏来館(企画展打合せ)9日(土)船山館長雪像コンテスト審査会出席10日(日)船山館長雪像コンテスト賞授与式出席14日(木)当振興会三役会15日(金)重油入荷2000リットル17日(日)七彩会油絵教室開催19日(火)RABサービス八戸支店長三浦氏、RAB十和田支局長竹内氏来館(企画展打合せ)21日(木)防火垂壁修理。大池学芸員口タリ講話。ナブコ自動ドア点検26日(火)Jサポート来館(当館HPへFacebookページ立ち上げ打合せ)

美術館
ワークショップ
(芸術文化観光推進事業)

鷹山宇一美術部
～七宝焼き教室～

「アートでおもてなし」
ものづくり体験講座

●●●●●●●●●●●●●●●●

■七宝焼き教室の様子をご紹介します。



●12月23日に今年度最後の活動となる「七宝焼き教室」を午前を子ども部、午後を一般の部に分けて開催致しました。講師は皆様もご存じの前当館教育普及担当、atelier Warms 佐伯知美氏です。

七宝焼きとは、金・銀・銅などの金属の上に釉薬を落とし、高温で焼いたものをいいます。その装飾の美しさから仏教典では金・銀・瑠璃・しゃく・瑪瑙・真珠・まいか（経曲によつて多少の相違あり）の「七種の宝石」の美しさを表現したものとされているそうです。



午前の子どもの部では、エンゼルフィッシュとイルカの形をしたキーホルダーとハートのペンダントをつくりました。みんな、焼き上がり想像して、どの釉

薬を使うか真剣。色の組み合わせに迷っては、やり直したりと大忙し。特に、エンゼルフィッシュとイルカは面積が狭い分、釉薬をのせるのが難しく。仕上げは・・・ご覧の通り！！こんなにキレイな作品が出来上がりました。

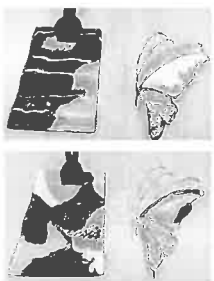


午後的一般の部では、蝶の形をしたブローチと四角く凹凸のある形のペンダントをつくりました。四角いペンダントは透明な釉薬を使うと凹凸が模様のように浮かび上が



つてきます。蝶のブローチはどうでしょう。鷹山画伯の絵画を思い浮かべて下さい。画面には動きを取り入れるため蝶が登場しています。絵画と関連づけた作品の制作もまた面白さの一つではないでしょうか。

みなさん色彩にとってもこだわりをもつてつくっていました。細かく釉薬を乗せてカラフルな蝶を表現したり、偶然重ねた釉薬が焼いたらステキな模様として浮かび上がった。みなさんなかなかの出来栄えに満足そうでした。



■H24年度 おもてなし体験講座の様子をご紹介します。

今年度をもちましておもてなし体験講座の活動を終了することとなりました。H22年度からはじまり、町内外の方をはじめ、県外の方とのふれあいにより、改善を重ね前へ歩んできたそんな事業だったと思います。3年間で多くの利用がありました。一部ではございますが、ご紹介致します。

●ご当地ストラップ制作体験



ながた。工使用アベた。のい超せんでのみ。超せんでのみ。超せんでのみ。

●南部菱刺し体験



●木版画制作体験



「どうしても木版画がやりたい」と移動の合間を縫って参加してくれた他県の方も。

●シルバーアクセサリー制作体験



県内外、男女問わず圧倒的な人気のシルバーアクセサリーでした。大切な人との記念のお品にも...



●手づくりアルバム制作体験



家族での思い出やステキな旅の記録、自分たちのアルバムを作りました。



今年度のワークショップにご参加下さいました皆様、ありがとうございます。来年度からはじまる新たな事業も引き続きよろしくお願い致します。

この度、3月末をもちましてこちらの財団を去ることとなりました。鷹山宇一記念美術館は、わたしにとつても思い出の深い美術館でした。はじめて、美術館のお手伝いをさせて頂いたのは、高校生の頃でした。そこで二科展を知り、魅了され高校3年間欠かさずボランティアに参加致しました。さらに水彩連盟の東先生のアクリル画教室にも参加させて頂きました。いづかこの美術館に携わることができたら...という思いを抱き、それが現実となつたこの3年間は本当に有意義なものでした。このすてきな空間が今後変わることもなく、一人でも多くの来館者の心に残る美術館となりますよう、ますますのご発展と飛躍を心よりご期待申し上げます。
慌ただしく過ぎ去る日々の中で未熟な私が一歩一歩ではありましたが成長することが出来たのは皆様の支えがあったからと感謝の気持ちでいっぱいです。
本当にありがとうございました。
(織川 孝子)

さて、私こと、今年度末を以て鷹山宇一記念美術館学芸員の任を解かれ、4月からは七戸町役場事務職員としての職務に専念することとなりました。このように私のために会報の紙面を用意してくださった友の会の皆様、そして長い在職期間中、公私にわたり格別のご懇情を賜りました皆様、本当にありがとうございます。未熟な私が今日まで無事に学芸員の職を全うし得ましたのは皆様の温かいご指導とご厚情、ご理解あつてこそです。至らないことばかりでどんなにご迷惑をお掛けしたことが、この場を借りてお詫びを申しあげますとともに、ご海容くださいましたこと、心からお礼申しあげます。

思い起こせば19年前、学芸員としてこの美術館の前に立ったときの感動、希望、不安、今も鮮明に覚えています。正直を言おうと不安99パーセント。美術館運営の経験者も先輩学芸員もいない、すべてが新しい体制のもと、学芸員は新卒の社会経験も無い、しかも専攻は日本史という私に、関係各位の皆様への危惧は20パーセントでは無かったでしょうか。名刺交換のたびに胸を張って「学芸員」と言えなかった情けない自分を思い出します。ちよびり自信を持って名乗りを上げられるようになったのは、謙遜ではなく本当に最近のことでした。

「結局は人づくり、人間を育てることなんだよ」鷹山美術館が長い草の根運動を経て誕生したいきさつを、草創期からご苦労をされてきた先輩方から伺い、この美術館の信念を私なりに運営に活かそうと努めてきました。鷹山宇一を中心に鳥谷幡山、平野四郎、上泉華陽という七戸町が誇る画家たちの作品を通して、また見町観音堂、小田子不動堂の絵馬などに表される町ならではの文化、歴史を通して鑑賞者ひとり一人の生きがい、満ちたその半生に活かすことができるよう、そして多様なアーティストたちによる「作品鑑賞」という行為を通じて「想像する力」

「思いやりの心」を鍛えることができる。内省により自分の立ち位置を見極め、人間であるからこそのよりよい人生を歩むための手助けをする美術館。これは、他館にはない「記念」「美術館」であるからこそのオリジナリティーです。この「美術館を貫く「柱」を次の世代に引き継ぐことができなかったことが、開設当初からの唯一の職員であった私の一番の悔やまれることです。一新された鷹山美術館が、美術館ビジネスに偏向することなく、皆様にこれまで以上の素晴らしい世界観を提供していただくものと信じ、何の恩返しもできないままで大変心苦しい限りですが、私はこの美術館を卒業させていただきます。

18年学芸員の道を自分の将来に夢見た中学生の頃から、揺らぐことなくこの仕事を、私の生きがいでありました。つらい屈辱の日々が続きましたが、信念をもって己の道を歩めとの鷹山宇一先生の遺言を支えに、これまでの私の生き様を見守り助けてくれた同志、私同様に館を去らざるを得なかった信頼の置けるスタッフたち、敬愛する先輩方、そして8才の息子を筆頭に家族みんなが、私という人間を寛容な心で受け止めてくれました。私が私で有り続けた原動力で有り、何よりの宝物、私の誇りです。今はただ、これから歩む新たな生きがい探しの世界が、無限大の可能性と希望、笑顔に満ちていると信じ、これまでもご恩に報いることができるよう、未来を見据えて精進して参りたいと存じます。他人の何倍もの努力をしなければ同じ土俵に上がるのでない不器用な人間ですが、私がお役に立てることならば是非お声掛けいただければとても嬉しいです。そして不肖大池には、まだまだ皆様のお力添えが必要です。どうか変わらぬご高誼をお願い申しあげます。末筆ながら、皆様の「健康」とご多幸をお祈り申しあげ、お礼と退任の挨拶にかえさせていただきます。万謝。

【心はどこにいても学芸員 大池亜希子】

友の会設立20周年記念 第6回海外美術館紀行(予告)

第6回海外美術館紀行をご案内致します。

かねてよりご要望がありましたロシア・サンクトペテルブルグのエルミタージュ美術館とパリのルーブル美術館等を鑑賞する海外美術館紀行を計画しております。

ただ今、旅行日程や旅行費用など詳細を打合せ中です。成案がまとまりましたら、友の会設立20周年記念の海外美術館紀行として6月発行の会報第70号と同封するチラシにより正式に参加者を募集する予定です。

下記に、本海外美術館紀行の概要をお知らせ致します。

記

1. 時期:平成26年5月中旬 7~8日間
2. 募集人員:30名(最少催行人員15名)
3. 訪問地等:
 - 1) サンクトペテルブルグ
エルミタージュ美術館、夏の宮殿など
 - 2) パリ
ルーブル美術館、オルセー美術館など

友の会設立20周年記念 足立美術館等研修旅行(予告)

昨年実施して好評だった「せとうち美術紀行」に引き続き、要望の高い美術館紀行を計画しております。当地方からは、遠隔地のため、なかなか行く機会が少ない山陰地方の美術館等を訪問する研修旅行です。皆様のご参加をお待ちしております。

6月発行の会報第70号と同封するチラシにより正式に参加者を募集する予定です。

下記に、本美術館紀行の概要をお知らせ致します。

記

1. 時期:平成25年9月中旬予定 2泊3日
2. 旅費:135,000円(予定)
3. 旅行幹事会社:十和田市 イーストツアー
4. 募集人員:25名(最少催行人員15名)
5. 日程:
 - 1日目 鷹山宇一記念美術館～
青森空港～羽田空港～出雲空港
～ワイナリー (出雲市泊)
 - 2日目 出雲大社～足立美術館(松江市泊)
 - 3日目 松江市内～島根県立美術館～
出雲空港～羽田空港～青森空港
～鷹山宇一記念美術館

～平成25年度第1回研修旅行のご案内～

「若沖が来てくれました～ツライスヨロクツヨツ江戸絵画の美と生命」

平成25年度友の会第1回研修旅行をご案内致します。

平成25年度 第1回研修旅行
 日時:平成25年 6月 2日(日)
 研修先:盛岡市 岩手県立美術館
 参加費: 5,000円(入館料、昼食代、交通費含む)
 募集人員:先着35名(最少催行人員は20名)
 申込期限:平成25年 5月 18日(土)
 申込先・問い合わせ先:鷹山宇一記念美術館

研修行程(予定)
 7:30 七戸南公民館
 7:40 鷹山宇一記念美術館～十和田市
 8:40 八戸高速IC経由
 10:30 岩手県立美術館
 13:00 昼食(ホテル東日本予定)
 14:00 フリータイム
 15:00 盛岡市出発
 18:00 七戸南公民館着
 ※詳細日程は、後日参加者にお送りします。



伊藤若沖筆 <鳥獣花木図屏風>
 花も木も動物もみんな生きている



6曲1双 各168.7×374.4cm

友の会会員登録の更新と
 新規会員入会お誘いのお願い

平成24年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有り難う御座います。
 今年度も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んでいただけるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。
 平成25年度更新手続きは、美術館窓口と郵便振替により行っておりますのでよろしくお願ひ致します。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2～3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

- 年会費 3千円
 特典
 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
 ②ミニシアター1割引
 ③研修会、講演会への招待、優待
 ④他美術館等の視察研修への優待参加
 ⑤会報の配布

○特別会員

- 年会費 1万円
 特典
 ①一般会員特典に加えて
 ②本人及び同伴者1名まで無料入館
 ③新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

- 年会費 2万円
 特典
 ①一般会員特典に加えて
 ②本人及び同伴者3名まで無料入館
 ③新規加入の方に画集1冊贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★お知らせ

★会費の納入は随時受け付けておりますが、10月1日以降に新規会員となった方は、翌年の3月31日までの会費となります。

編集後記

★会報も号を重ねて70号となりました。会員の皆様のご協力に、心から感謝申し上げます。
 ★美術館開館以来、研究・学芸活動を中心に支えてこられた大池学芸員が、町の人々から離れた美術館から離れることになり、この機会に、ご希望の致し、ご協力に深く感謝申し上げます。友の会設立以来、共に歩んでまいりました。寂しくありません。ございませ。

(T.T)